

令和 3 年 6 月 27 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K01995

研究課題名(和文) 日仏におけるブラジル人女性移民の生活世界の比較研究

研究課題名(英文) Comparative study of construction of a life-world between Brazilian female migrants in Japan and France

研究代表者

渡会 環 (Watarai, Tamaki)

愛知県立大学・外国語学部・准教授

研究者番号：50584372

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、インターセクショナリティという視座に基づき、移民女性のエージェンシーに着目しながら、日本とフランスに移住したブラジル人女性たちが構築する生活世界を明らかにしたものである。ブラジル人女性移民はそれぞれの社会で受ける自身の(不)可視性を経験しながら、職業アスピレーションを強めてもいた。女性移民の側で(不)可視性を利用することがあった。それはケアワークに従事する者に顕著であった。文化資本の利用はブラジル人ケアワーカーが労働市場において有利にもし、職業的アスピレーションも強めているが、「ブラジル人」という特定のイメージが引き続き社会の周縁に彼女たちを位置づけてしまう恐れも指摘できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、先行研究が扱ってきた移民の就労や生活の実態だけでなく、移民がこれから構築したいと考える生活世界に着目し、特に、キャリア形成の可能性について考察するものである。本研究で扱う、壮年期の移民はこれまで、日本では外国籍住民支援のシステムから抜け落ちてしまうことが多かった。本研究の成果を壮年期の移民に対する具体的な職業訓練や生活支援策への提示へと繋げることによって本研究の社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study examines the construction of a life-world among Brazilian female migrants in Japan and France by applying intersectionality as a critical framework to investigate agency among migrants. In semi-structured interviews with Brazilian female migrants, it was found that they adapt to their particular visibility within their host societies and face the real possibilities and limitations of their occupational aspirations in this way. They also manage their (in)visibility by using their cultural capital or refraining from its use. This is seen in care work, in particular, a sector experiencing labor shortage, wherein more and more Brazilian female migrants are engaged. Although Brazilian caregivers have gained important recognition in their workplaces, which has strengthened their occupational aspirations, the greater accentuation on the idea of Brazilians in their host societies can restrict their position in both societies to a relatively marginal one.

研究分野：ブラジル地域研究

キーワード：移民 界 インターセクショナリティ ジェンダー ブラジル人 キャリア形成 フランス 日本 生活世界

1. 研究開始当初の背景

ブラジルでは1980年代の国内の経済危機を契機に海外に就労機会を求める人の移動が顕著となり、2008年に同国は「移民送出国」となった。ブラジルからの移住者の多くは今日女性で占められており、女性に焦点をあてた研究も国内外の研究者によって展開され、今日までかなりの蓄積がなされている。こうした研究には、ネイション、階層、ジェンダーといった複数の要因が交錯して与える影響を考慮する「インターセクショナルリティ」という視座が積極的に取り入れられている。さらにその視座は「差異」が相互に関連しあうことで開かれる女性のエージェンシー、すなわち、女性移民による主体の構築さらにはそのエンパワーメントの側面も指摘している(Brah 2006)。

にもかかわらず、先行研究では、就労や生活の実態を明らかにすることが主な目的となっており、女性移民がこれから築きたいと願う生活世界やそれに向けての行動はあまり分析されていない。たとえば、キャリア形成といった点である。それには、「移民の職」と言われる非熟練労働に就くことを前提に、あるいはその可能性が高い状況下で移住する女性が多いこと、また、非正規滞在者であり不法就労している者も少なくないためキャリア形成がそもそも難しいことが関係している。しかしながら、正規滞在者がほとんどである在日ブラジル人女性でも、キャリア形成を問う研究は展開されはじめたばかりである(渡会 2016)。

女性たちの声に耳を傾けると、「キャリア」形成への強い関心がうかがえる(渡会 2016)。これには、モロクワシチが指摘するように、女性移民の生活世界の構築には、移住前の価値観が重要であることが関係しているためである(Morokvasic 2007)。ブラジルでは女性の間でますます働くことを通じて自己実現が図られるようになってきている。このように母国で育まれた職業観、ジェンダー規範や階層帰属意識、さらには、移住先社会の価値観が交錯する中で、女性移民は今後どこでどのように生きていくのかという選択を行っているのではないか。ただし、その選択肢は移住先での移民の法的地位や「ブラジル」という国に対するイメージなどローカルな要因に制限されることが考えられる。こうしたことから、ローカルな要因がブラジル人女性移民の生活世界の構築に与える影響を明らかにするには、異なる環境下の事例を比較する研究へと展開する必要がある。

2. 研究の目的

こうした研究の背景を踏まえ、本研究は、移民を「法的地位に関係なく、その国に一年以上居住している者」と定義したうえで、日本あるいはフランスに渡り非熟練労働に従事しながらも定住を視野に入れ始めた30、40代のブラジル人女性が、母国と移住先での職業観、ジェンダー規範や階層帰属意識が交錯する中で、構築しようとする生活世界を明らかにすることを目的とした。日本とフランスの比較によって、移民の法的地位や「ブラジル」に対するイメージの違いといったローカルな要因と、国際経済や難民問題などグローバルな要因が移民の生活世界の構築にどのような影響を及ぼすのかの考察を行った。明らかになったことを、壮年期の移民を対象とした職業訓練や生活支援策、グローバル・ローカルな要因の相関関係の解明による地域研究への貢献、へと繋げることも本研究の目的として設定した。

3. 研究の方法

フランスにおいてブラジル人女性が位置づけられる社会階層やその階層を決定づける要因の一つである労働力の確保のためのフランスの移民政策の変遷を、先行研究をもとに整理した。日本についても文献調査を行い、この数年変化が著しい日本政府の外国人施策の中にブラジル人女性を位置付けて、考察した。日仏に移住したブラジル人女性たちが従事することが多いケアワーク、特に、高齢者介護の国際化についても、文献調査を進めた。

そして、女性移民の生活世界の構築過程を明らかにするために、半構造化インタビューを行った。日本のブラジル人コミュニティでは、ブラジル人女性をはじめ、ブラジル人を支援する団体や職場を斡旋する人材派遣会社にインタビューを行なった。フランスでのインタビューは、2018年から2019年まで断続的に、パリおよび近郊都市で行った。インタビューは、ブラジル人女性のほか、ブラジル人相互扶助団体の2団体、ポルトガル語で礼拝を行う3教会、老人科を専門とするフランス人医師と科の秘書、ブラジルとフランスの二重国籍を持つ医師にも行った。

4. 研究成果

(1) 移住先社会でのブラジル人移民の(不)可視性

第二次世界大戦後のフランスへの労働移民は、戦後の復興や高度経済成長のもと個々の企業や国家事業で大量の外国人労働者が受け入れられた時代と、非熟練で大量の労働力ではなく「選別的受け入れ」と呼ばれる政府による積極的な高度人材の受け入れが行われる一方で自らがフランスへと移りサービス業につく人々の流れが顕著となった時代、この二つの時代によって特徴づけられる。ブラジルからの労働移民は1980年代後半から増加しており、後者の時代の移住者であり、他国からの移民とともに、労働力の不足が生じている、建設、土木、家事支援、とい

った分野に従事している。しかしながら、そうした労働者としてのブラジル人の姿はフランス社会において不可視化されている。ブラジル人移民数の相対的な少なさに加え、ブラジル人とフランス人の相対的な「文化の近さ」により、「移民問題」としてブラジル人が語られないためである。そのうえ、フランス社会においてはブラジルという国には比較的肯定的なイメージが付与されており、フランスでは、可視化も不可視化も、ブラジル人のフランス社会への統合を比較的にスムーズにさせている。

一方、日本では、ブラジル人を含む移民が近年、「外国人材」という語りのもとに可視化されている。「外国人材」は、2014年に日本政府が「日本再興戦略改訂2014」にて人口減少社会への対応を示した際、女性・高齢者の労働市場への参入拡大とともに、外国人労働者の受け入れ拡大政策の推進を行うと記した中で用いられた。「移民」という表現に抵抗がある世論に配慮し、「外国人材」という表現が用いられたのである（万城目 2016）。

（2）ケアワークでの（不）可視性

上記の「外国人材」、その「外国人材の活用」先として日本政府が期待しているのが「介護」、特に高齢者介護の分野である。ブラジル人を含む定住外国人には就労環境の改善の一環として、介護に特化した日本語講座や介護職員初任者研修を受ける機会を提供している。ポルトガル語で行われるものも多い。これまでの工場での就労に加え、「介護」は、在日ブラジル人の職業選択肢の一つになりつつある。

一方、フランスでは高齢者介護も含むケアワークが「移民の仕事」としてこれまでも理解されてきた。フランスでは、フランス人女性の社会進出により、家事労働の外部化が進むと同時に「対人サービス」振興によって制度化され（中力 2017）、それが育児、高齢者介護、炊事、洗濯、掃除など広義の家事労働分野で移民が雇用される状況をフランスに生み出した（北澤 2014）。フランスでは高齢者介護も広義の家事労働に包摂されているため、ブラジル人女性移民は様々な形で高齢者の生活を支援している。しかしながら、このことは彼女たちが高齢者介護者としての姿を不可視化してしまうと同時に、彼女たちが自身の職種を理解することを難しくしていることが本研究を通じて明らかになった。

（3）（不）可視化を通じた主体化

フランスでは、ブラジル人女性移民の家事労働者としての姿もあまり知られていない。しかしながら、高齢者介護に携わるブラジル人女性移民は、自身の姿と労働を「ブラジルらしさ」によって可視化しながら、その一方で、フランス社会において「移民」としては不可視化されることで、自身の有能さを感じていた。その高齢者介護において利用される「ブラジルらしさ」とは、ブラジル人女性自身がブラジルとフランスの家族文化を比較する中で抽出した「家族思い」であり、それはフランス社会で流通しているブラジル人へのステレオタイプとは一致していなかった。

日本の事例でもブラジル人女性移民が考える「ブラジルらしさ」の利用が確認でき、日本語能力は限られているが、それ以外のコミュニケーション能力の高さをブラジル人独自のものとして語り、自身の仕事への取り組みを評価していた。高齢者介護には、高齢者が立ち上がったたり、座ったりする際などに必然的に介護従事者との間に身体的接触が伴う。ブラジル人の介護従事者は、日本では一般的ではないとしながらも、自らが高齢者に抱擁をし、それが高齢者との関係を良好にすると語っており、そうした身体的接触の「自発性」を「ブラジルらしさ」として捉えていた。

その「ブラジルらしさ」は、フランスでインタビューした女性がブラジルの調味料に譬えて語ったように、日本でもフランスでもわずかに利用される程度ではあるが、移住先社会に対しブラジル人女性もまた、人種・民族的な差別の基盤を提供してしまう恐れがある。

（4）ブラジル人女性移民のキャリア形成の可能性

移住経緯や移住先で就く職種の違い、移住先の言語の習得の容易さ・困難さなどによって、日本あるいはフランスのブラジル人女性移民の置かれた状況は異なるが、ブラジル人女性移民のキャリア形成の可能性について最後に考察したい。

「移民の仕事」の評価できる点として、インタビューをした在日ブラジル人女性はフランス語力の向上とフランス社会の理解を挙げていた。日本でブラジル人女性の多くが携わる工場での労働とは異なり、サービスの受け手であるフランス人と常に接触するためである。語学力を基盤にして他職種へ転職し、その転職先でフランスでは労働者が受ける権利として提供されている職業訓練を活用して専門性をさらに高めたり他職種へ転職する事例も見られた。それらの事例ではフランスの教育制度および資格制度、労働法に規定された職業訓練、子育て支援の活用は、ブラジル人移民女性のキャリア形成を可能にしていた。このようなフランスの制度に関わることで自体またそれによって達成できたキャリアは、彼女たちの間でフランス社会に包摂されているという意識も強めた。

「外国人材の活用」が政府によって声高に叫ばれる日本でも、ブラジル人を含め外国籍住民の大学や大学院での学位取得、職業訓練の活用を促進させることが、外国籍住民のキャリア形成への意欲を高められると思われる。その際には、学ぶことと働くことが連動し、インターンシップ等による実地による訓練の充実も、効果的な向上をもたらすと思われる。このことにより、移住先社会に包括されているという意識が在日ブラジル人女性の間でも強まるとと思われる。

以上の研究成果は、研究成果報告書にあるように論文の形にまとめると同時に、本研究を通じて新たな問題として顕在化した点について、令和3年度から取り組む研究課題へと展開させた。具体的には、国際移住の中で母国に残した高齢者の家族の扶養義務をめぐる問題、また、海外で再生産労働に関わるブラジル人移民がブラジル社会における「介護」や「高齢者」の理解に与える影響について今後は研究を行う予定である。

<引用文献>

Brah, A. (2006). Diferença, diversidade, diferenciação. *cadernos pagu* (26), pp. 329-376.

Morokvasic, M. (2007). Migration, Gender, Empowerment. In I. Lenz, C. Ullrich, & B. Fersch. (eds.), *Gender Orders Unbound?: Globalisation, Restructuring and Reciprocity*, Opladen and Farmington Hills: Barbara Budrich Publishers, pp.69-97.

北澤謙 (2014) 「第5章フランス」『JILPT 資料シリーズ 欧州諸国における介護分野に従事する外国人労働者-ドイツ、イタリア、スウェーデン、イギリス、フランス5か国調査-』, 101-119 ページ。

万城目正雄 (2016) 「外国人技能実習生度をめぐる制度変容-アベノミクスにおける外国人材活用政策を中心に-」『東海大学紀要教養学部』47, 215-231 ページ。

中力えり (2017) 「EUにおける『対人サービス』振興政策の背景と課題-フランスとベルギーのバウチャー制度の比較を中心に-」『和光大学現代人間学部紀要』10, 25-40 ページ。

渡会環 (2016) 「メイクアップされるブラジル人女性の生活世界」河合優子編『交錯する多文化社会-異文化コミュニケーションを捉え直す-』ナカニシヤ出版, 84-118 ページ。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 渡会環	4. 巻 53
2. 論文標題 フランス社会の不可視な移民 高齢者介護に携わるブラジル人移民と可視化の戦略的利用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知県立大学外国語学部紀要（地域研究・国際学編）	6. 最初と最後の頁 77-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00004472	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡会環	4. 巻 15
2. 論文標題 移民女性のキャリア形成の可能性 フランス人のブラジル人女性ケアワーカーを事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 共生の文化研究	6. 最初と最後の頁 100-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00004610	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Tamaki Watarai
2. 発表標題 Being Beautiful in Japan: Brazilian Female Migrants' Experience of Racialization in Their Ancestral Homeland
3. 学会等名 Latin American Studies Association（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tamaki Watarai
2. 発表標題 Como maquiar o rosto de uma japonesa: brasileiras vivendo entre corpo oriental e o ocidental no Japao
3. 学会等名 Associação de Brazilianistas na Europa（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tamaki Watarai
2. 発表標題 From invisible to visible: Brazilian female migrants in Japan and their occupational aspirations under the forces of visibility
3. 学会等名 The Migration Conference 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tamaki Watarai
2. 発表標題 Consumindo para viver uma vida transnacional: migrantes brasileiras no Exterior e o seu estilo de consumo
3. 学会等名 Brazilian Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tamaki Watarai
2. 発表標題 Peut-on parler d' options de carriere des migrantes bresiliennes ? : les cas des travailleuses du care en France et au Japon
3. 学会等名 49e Cycle de Conference de la Maison du Bresil
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Armagan Teke Lloyd	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Transnational Press London	5. 総ページ数 250
3. 書名 Exclusion and Inclusion in International Migration: Power, Resistance and Identity	

1. 著者名 田村梨花・拝野寿美子・三田千代子・渡会環	4. 発行年 2017年
2. 出版社 SUP上智大学出版	5. 総ページ数 250
3. 書名 ブラジルの人と社会	

1. 著者名 Duncan Ryuken Williams	4. 発行年 2017年
2. 出版社 University of Southern California, Kaya Press/Ito Center Editions	5. 総ページ数 520
3. 書名 Hapa Japan: Identities and Representations, Vol. 2	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------